

Contents

■特集 駅を活用したまちづくり	2・3P
■新しい長浜市ってどんなまち⑥都市基盤編	4・5P
■パブコメ（文化芸術）、事務室の移転	6P
■市営住宅入居募集、防災訓練、耐震診断	7P
■浄化槽の適正管理、ごみ指定袋制度1周年	8P
■レジ袋減量キャンペーン、消費生活フェア	9P
■市職員の給与・勤務条件	10P・11P
■まちの話題	12P・13P
■幼稚園募集、出産一時金4万円アップ	14P
■保育料改定、保育園・認定こども園募集	15P
■インフルエンザ予防接種、介護予防サポーター養成講座	16P
■お元気ですか、院内助産「うぶごえ」	17P
■地域リーダー養成塾、地域安全長浜市民大会	18P
■人権ってなあに、秋の行政相談週間	19P
■多文化共生、パソコン講習	20P
■年金、中小企業、地産地消	21P
■インフォメーション	22P・23P
■裏表紙 2011年大河ドラマ「江〜姫たちの戦国〜」、北近江戦国浪漫フェスティバル、長浜出世まつり	24P

今月の表紙

第11回西黒田金太郎相撲大会

写真は、“金太郎の里”西黒田地区の松の岩公園グラウンドで開催された「西黒田金太郎相撲大会」の様子です。この大会は、同地区に伝わる金太郎伝説にちなんで平成11年から開催されています。

秋晴れのもと、幼児から小学生までのかわいい力士たち73人は、幼児・小学校低・中・高学年の各部門に分かれ、家族や友達、近所の人たちの熱い声援を受けながら、金太郎のように力強い取組を披露してくれました。

特集

駅を活用したまちづくり

駅を元気に

駅はひと・まち・歴史をつなぐ場所であり、まちの顔でもあります。だから、駅が元気でないとまちに元気が出てきません。

平成18年10月に完成した5代目の長浜駅。その駅前整備もこの夏に終了し、湖北地域の玄関口として、新たな長浜市の顔としてスタートしました。

琵琶湖環状線の開通に合わせて完成し、3年が経過しましたが、少し利用者が少なくなってきたようです。まちの顔である駅を元気にするため、駅に足を運んでみませんか。



▲平成18年10月に竣工した5代目の長浜駅（西口から）

駅とは

一般的に駅と言えば、「汽車・電車などが停車し、旅客の乗降、貨物の輸送を取り扱う場所。また、その建物。停車場。」といった意味で使われていますが、次の言葉からもうわかるように、「次から次へ送る。伝える。」という意味も持っています。

また、よく駅は「まちの顔」や「まちの玄関口」と言われるように、まちを代表する場所という意味合いも持ち合わせています。

今のJR長浜駅は、まさに新しい長浜市や湖北地域の顔としての役目をしっかりと果たしています。

明治のにぎわい

今も多くの利用者で賑わっている長浜駅ですが、昔はもっとすこかったようです。日本で初めて鉄道が開通したのが明治5年の新橋・横浜間。

その後、全国的に鉄道が整備されていきますが、長浜を含む湖北地域は、先人の先見性と地理的特性により、その10年後の明治15年には鉄道が整備されました。

当時の長浜は、湖上交通の起点でもあったことから、多くの人やものが行き交う拠点として賑わい、「停車場前には長浜に79軒あった旅館のうち、39軒が集中しており、人力車47台、運送店15店、飛脚屋が4店あった。荷物の積み卸しに従事する仲仕業の店も47店あった。」と言われている。



▲鉄道開通当時の貨物取扱所の図（長浜市史より）

今では考えられない光景ですが、昔の長浜はとにかく多くの人と物で賑わっていました。

直流化と琵琶湖環状線

近年、鉄道の利便性の向上とまちの活性化を図るため、北陸本線の直流化に取り組んできた結果、平成3年9月には長浜駅までが直流化され、京都・大阪から長浜までの直通運転が可能となり、利用者が2倍近く（H2とH9比較）に増加し、まちにぎわいを与えてくれたのは記憶に新しいところです。

その後、平成18年には、地域間交流の促進と県土の均衡ある発展のため、また、利用者の増加と地域経済の活性化を期待し、長浜・近江塩津間と永原・近江塩津間の直流化が行われ、琵琶湖環状線が完成しました。

それに伴い、長浜駅舎も新たな駅舎に姿を代えることとなりました。現在の駅舎が旧駅舎を模しているのは、旧長浜駅舎を文化遺産ととらえるのではなく、新駅舎のデザインに再現することによって、新駅舎が往時を彷彿とさせるようなまちの拠点として息づき、まちの活力源となることで、新たな長浜のまちづくりのスタートにつなげたいという願いが込められているからです。

利用促進

琵琶湖環状線の開通時には、北近江一豊・千代博覧会や開通記念イベントが行われ、利用者が増加しましたが、それ以降は利用者が少し減少しています。また、利用者が減少すると列車運行本数にも関係してくるからより一層の利用が求められるています。

そのような中、鉄道の利用促進を図るため、駅前での街頭啓発やSL列車の運行などの北びこ周遊キャンペーン、さらにはJRとタイアップしたハイキンググッツアーなどを実施してきました。また、さらなる利用者増加と列車の運行本数などの改善のため、新たな取組として来年2月末まで、「こほくマイレールキャンペーン」を始めたところです。

こほくマイレールキャンペーン実施中！ 2010.2.28まで



毎日駅を利用しなくても、さまざまな形で駅を利用することにより、駅が元気になるれば、その元気がみんなに伝わり、まちが活性化していくのではないのでしょうか。

新市の合併基本計画でも、主要な施策のひとつとして「駅を活用したまちづくり」を掲げています。駅舎等の整備や駅周辺の市街地整備とともに、まちの顔でもある駅をいっつまでも大切にすることが、みんなに持つてもらうことが駅を活用したまちづくりの第一歩ではないでしょうか。次頁では、合併後、新長浜市の駅となる9つの駅の概要や取組などを紹介しています。

駅を笑顔に

「駅」は住む人に誇りをもたらし、まちの産業や文化に活力を与えるところであり、まちの顔でもあります。明治時代の長浜駅はまさにその役割を果たしており、駅もきつといい顔をしていたのではないのでしょうか。また、地元の人々の駅にかける熱い思いや、駅を愛する心がいかに顔にさせていたのではないかも思われます。